

～出演～

振付・指揮



江藤勝巳

幼少よりピアノを学ぶ。竹園臣氏に、指揮法を高階正光氏に、クラシックバレエを三浦和子、橋本真由子に師事。振付家として、新演出の全幕バレエを全国各地のバレエ団、研究所等で行っているほか、(公社)日本バレエ協会公演で「マリイ・アントワネット」「ピアノ・コンチェルト」等の作品を発表し好評を得る。バレエピアニストとして、バレエ・ジャンプルウエスト、(財)スターダンサーズバレエ団、香港バレエ団等で活躍。新国立劇場バレエ団結成時より、専属ピアニストとして、全公演のリハーサル・ピアノを担当。03年バレエ・ジャンプルウエスト『タチヤーナ』の通曲を行い、ロシア公演にて高く評価される。同バレエ団では、『LUNA』、『プランカ』、『おやゆび姫』等の通曲を行い好評を得ている。04年12月『眠れる森の美女』全曲版の演出、振付、指揮者としてデビュー。その後、『白鳥の湖』、『ジゼル』、『ラ・バヤデル』等の演出、振付、指揮を同時に行い、振り付けのできる指揮者として活躍している。

原作・台本・作曲・プロデュース



岡本由利子

静岡市出身。日本女子大学史学科卒業。ピアノを井上和子、奥村邦、三浦洋一、各氏に師事。作曲は独学で始め、三人の子育てが一役落した30代後半よりカルチャーセンターの作曲講座で鈴木静明氏に作曲を学ぶ。講座終了後、引き続き同氏に師事。マルチメディアコンテストで『赤い花』が『サウンド&レコーディングマガジン賞』受賞。ピアノ小曲集『母(ママ)の情景』全音楽譜出版社より出版、出版記念コンサートを開催。松本市の『970びけ野ばら88曲コンサート』で自作『野ばら』最優秀作品受賞。音楽の友特集『私とショパン』で優秀記事掲載。最近では主にバレエ音楽を中心に作曲を続けている。

泉の女神・バレエミストレス



佐藤真左美

松山バレエ団、スターダンサーズ・バレエ団を経て、1992年文化庁在外研修員舞踊派遣をきっかけに研修先であった、The Australian Balletに入団。ソリストとして数々の作品で評価を得る。帰国後はスターダンサーズ・バレエ団のプリマバレリーナとして多くの作品の主役を踊る。特に英国作品『サー・ビーター・ライト』作品『コッペリア』、『くるみ割り人形』などでは高く評価を得る。2002年メルボルン大学ビクトリアカレッジ(VCA SCHOOL OF DANCE)クラシックバレエ指導員資格修得、首席卒業。永住権獲得。メルボルン・ナショナル・シアター・バレエスクール勤務、2009年より校長補佐を務める。帰国後、2014年より戸塚大学バレエコース非常勤講師、戸塚大学バレエ教師課程ディプロマコース担当講師として日本のバレエ指導者の育成にも関わり、公益社団法人日本バレエ協会主催コンクール(アンジェス賞)振付都民フェスティバルでのバレエミストレス(2017年、2018年)、2017年合同バレエの夕べ『Ballet Biliant』振付作品発表。

バレエダンサー



ティナ(姉)：中村彩子

4才より深沢和子バレエ団(現バレエ芸術座)附属研究所にてバレエを始める。バレエ団公演『赤い鳥』等に参加。1998年に東京義塾大学文学部にて、哲学科美術史学専攻現代芸術・舞台芸術・現代美術を研究。1999年より日本バレエ協会公演、神奈川舞踊連公演に参加。2006年NBAバレエ団に入団し、正団員として一線で活躍する。バレエ団退団後も日本バレエ協会の公演など様々な公演にソリストとして出演している。



ベル(妹)：榎本祥子

清下可朝、井上佳代子に師事。フランスにあるジュニア・グベレバエスクール、ギイ・ボジヨリに師事。都民芸術フェスティバル、文化庁本物の舞台芸術体験発表公演にてソリストとして出演。BAヤング・バレエ・フェスティバル『卒業舞踏会』にて第2ソロ、翌年ラ・シルフィードを踊る。14年武蔵野シティバレエ公演『眠れる森の美女』フロリナ姫。17年全国合同バレエの夕べ『コッペリア』スワニルダを踊る。バレエ・コンクール IN 横浜第3位、全日本バレエ・コンクール・ファイナリスト。



ルーク：吉瀬智弘

東京都小平市出身。1998年竹内良バレエ教室入所。2004年スターダンサーズ・バレエスクール入所。2008年スターダンサーズ・バレエ団に入団。2011年ピーターライト版コッペリアでフランツを踊る。その後多くの作品で主役を踊る。2018年1月同バレエ団を退団。現在フリー。



バロル：米倉佑飛

7歳より静岡の伊藤美智子バレエスタジオにてバレエを始め、その後アクリ・榎本バレエアカデミーを経て、2008年よりポルトガル国立コンセルヴァトワールへ留学。留学中ドイツのTANZOLYMP国際バレエコンクールにて銀賞を受賞。2009年ポルトガル国立バレエ団へ入団、2011年よりリトアニア国立オペラ・バレエシアターへ移籍し踊ったのち、2015年夏よりNBAバレエ団にソリストとして入団。2018年に退団し、現在はフリーとして踊る。



アンサンブル：平子麻梨絵

3歳より平松恵バレエ教室にてバレエを始め、その後、江藤勝巳・津守美江に師事。2006年、NBAバレエ団所属。バレエ団公演及び退団後は日本バレエ協会公演(都民芸術フェスティバル)、合同バレエの夕べ・ヤングバレエフェスティバル(など)多数出演。2017年、名取唯人主宰 Hiroto's Showにて、くるみ割り人形花のワルツソリストとして出演。



アンサンブル：福泉陽花

4歳よりクラシックバレエを小嶋真美子に師事。ジャパン・グランプリでスカラシップ賞受賞し、ポルトガル国立コンセルヴァトワールへ留学。卒業後、ポルトガルコンテンポラリーダンスカンパニーに入団。国内外のコンテンポラリー・クラシックバレエ、お芝居などの舞台作品に出演。2016年からショーケースなどでデュオ作品を発表。

ピアノ



高橋英美

3歳よりピアノ、14歳より音楽を始める。16歳でカワイ音楽教室のピアノ指導者として必要な資格、ピアノ演奏グレードを取得。東京音楽大学音楽専攻卒業。同大学院研究領域音楽学修士。大学院修了後、東京音楽大学アクト・プロジェクト及び三大学連携プロジェクトのコーディネーターを8年間務める。現在はリーダー「ネコピアノ」として活動しながら、音楽教室を運営している。

司会・ストーリーテラー



土田有希

女優、桐朋学園演劇科卒。Stepsエンターテイメント、演劇ユニットBLETSを経て現在は独立。パフォーマンスユニット大多福一座にて、岡本由利子氏と出会う。舞台の経験を生かし、現在では舞台、映像、祝賀イベント、日本舞踊など幅広く活動。ヨガスタジオにてヨガのインストラクターとしても活動中。

歌&ダンス



灰野優子 & ベスラー

●灰野優子
ミュージカル劇団を経て、数々の舞台やライブへ出演。また、演出・作詞作曲・振付・映像編集等もオールマイティに行う。近年では関東・関西等の大手テーマパークにて主演ミュージカル出演、シンガーやアクターとして数々のショーに出演。
[主な出演作]
東宝ミュージカル『Les Misérables』、ブロードウェイパベットミュージカル『MAYAY THE BEE』、『半神』(野田秀樹*脚本)など。

●ベスラー
ミュージシャンの父、音楽教師の母を持ち、自身もバイオリンやギター演奏を楽しみながら幼少期を育つ。学生の頃はバンドを組み、自身はボーカリストとして数年活動する。そんな折、もっと色んな歌を歌える様になりたいと、19歳の演劇団四季の研究生としてミュージカルなどエンターテイメントの世界に身を置き始める。テーマパークにて声優、アクター等をつとめる傍ら、ボーカリストとしてのインストラクターとして沢山のひとに歌を好きになってもらえるよう活動する。現在は、年に数回かつての仲間たちと公演を行う等、幅広く活動を継続中。

オーケストラ：gaQdan

～スタッフ～

演出

多々良光洋
演劇総合プロデュース主宰。主に俳優として活動しているが自身の劇団では脚本、演出も手掛ける。今年の主な出演はドラマ『釣りバカ日誌2019』や『トレース 科捜研の男』CM『大福自動車』などがある。

照明

榎原 大輔

音響

河田 康雄

衣装

津守 美江

録画撮影

O.S.アーツプロダクション株式会社

写真撮影

大根田英俊

舞台監督

川畑 信介

舞台監督助手

須藤 旭

美術

壺阪英理佳

武器製作

羽鳥 健一

小道具

高津装備美術株式会社

協力

大多福一座/神農 友貴
岡本紗也子

バレエ

ダーナの泉

NORTHERN IRELAND

IRELAND

SCOTLAND

ENGLAND

バレエ ダーナの泉 作：岡本 由利子

日時：2019年5月4日(土・祝) 開演 15:00(開場 14:30)

場所：国分寺市立いづみホール

PROGRAM

第1部

《司会：土田有希 お話し：岡本由利子》

●ピアノ小曲集「母（ママ）の情景」より《ピアノ演奏：高橋英美》

1. キエフの大時計
雪降る町の古時計 コチコチ刻む はらかな時を
2. 教育母的鶏（きょういくママのにわとり）
イライラめんどり まなじり三角 ひよこの頭をツンツンツン
3. 野の花よ
りと咲く 小さな白い花見つけた 子供とおさんぼの小道で
4. しりとちャップリン
音のしりとち 走れや走れ！ 警官 チャップリン 走れや走れ！
5. 銀の魚
すきとおる水の中 つきぬける銀の影
6. ラメンタービレ アーメン
たちのぼるけむりに 深い祈りをこめてー

●歌 《灰野優子&ペ☆ローリー》

1. カラスの九郎
人間社会ではとく嫌われ者のカラス。さて、この九郎の心は？
「クロウ」には、いくつかの意味があるので、思い巡らせてみて下さい！
2. アリからキリギリスへ
イソップ寓話で有名な「アリとキリギリス」。夏の間、食べ物を蓄えていたアリに 比べ、遊び暮らしたキリギリスは惨めでしたね。さて此処に登場のアリは？！

～ 休憩 (15分) ～

第2部

◆バレエ ダーナの泉

登場人物 ()内は衣装の色

- ティナ (赤)：フロレスタン国領主の娘。姉妹の姉。活発で男勝りだが妹思いのしっかり者。
- ベル (白)：ティナの妹でおとなしく心優しい。ルークの恋人。
- ルーク (青)：さすらいの青年。女神ダーナを大切に守るフロレスタン国が気に入り、暮らし始めている。剣の達人でフルピコという笛の名手。この物語の主人公。
- バロル (黒)：強大なフォモール国の冷酷な司令官。自分の不吉な運命に怯えている。
- アンサンブル (水色・こげ茶・薄紫)：村娘、門番、召使として登場。
- ストーリーテラー&占い師：物語の進行役&ドルイド★(後述) という重要な役柄

～ダーナの泉～

紀元前のアイルランドに伝わるケルト神話をベースに、オリジナルストーリーを書き、同時に作曲して、物語のあるバレエ作品に仕上げました。(全12曲、約45分)
バレエにはセリフがありません。ですから新作の場合、よほど事前にあらすじを読んでおかないと内容がわからないと思われるかもしれません。でもご安心下さい。
今回はわかり易いバレエをめざし、演劇とバレエが融合、ストーリーテラーがご案内をしながら物語を展開させます。
そんな訳で、あらすじはあえて書きませんが、事前にダーナ神話のミニ知識、見所を挙げておきましょう。

見所1

このバレエはルークとバロルという二人の男の闘いを中心に描かれている。

<ルークとバロル>

ケルト神話の中に登場するダーナ神族は、圧政を強いるフォモール族と闘った。フォモール族を率いるバロルは戦となればその魔眼で敵の兵士を殺す大男で、闇のバロル、一方ダーナ神族を率いたルークは万能の神であり、光の神ルークと言われた。

～ルーク出生の秘密～ 実は二人は祖父と孫？！

バロルは、ある日ドルイド★(後述) から恐ろしい運命を告げられる。それは自分が孫の手にかかって殺されるというものだった。バロルは娘のエスリンに侍女をつけ、高い塔に幽閉する。けれどキアンという若者が近付き、娘は3人の子供を授かる。怒ったバロルはアイルランドの荒波に三人の孫を投げ捨てた。すると、その中の一人ルークだけは海神に助け出され、鍛冶、詩芸、医術、魔術等の能力を持つ神々に育てられ、様々な技能を身に付けて成長する。やがてダーナ神族の王となり、フォモール族との闘い勝利した。しかしながら、ルークには宿敵フォモール族の血も流れていた、という事になる。

～バロルの最期～

バロルの最期には諸説あるようだ。優れた鍛冶師の評判を聞いたバロルがルークの元にやって来たがお互い素性を知らない。が、バロルがルークの父親キアンを殺した自慢話をした為、ルークがバロルと気がつき、焼けた鉄の棒を魔眼に刺し貫いた。又はルークが戦で魔眼を避け、背後から投石機で襲った、たまたま小船に放った矢がバロルに当たった等々。

<ドルイド★>

ドルイド神官は天文学を始め、自然界の摂理に通じる。権力者は未来を予言する彼等の力を頼り、ドルイドは王と深く関わり、占い、助言、時に忠告も行う大きな力を持った存在であった。白装束に身を包み、女性のドルイドも存在したと言われる。聖樹崇拝、特に樺の木(オーク)のヤドリギは貴重とされていた。霊魂不滅、輪廻転生の教義(ドルイズム)を説き、ケルトの戦士は死を恐れず非常に強かったと言われる。

参考文献：図説ドルイド ミランダ・J・グリーン＝著 井村君江＝監訳 大出健＝訳 東京書籍

見所2

四色の衣装の色の意味は相撲と関係している？！

中心人物として登場する4人はそれぞれの色の衣装を身につけている。ルーク(青)バロル(黒)ティナ(赤)ベル(白)
この4色の色から思い浮かぶ事はないだろうか？それは相撲の土俵の四方に掲げられている四色の総(ふさ)の色で、青又は緑(青龍・東・龍・春)、黒(玄武・北・亀・冬)、赤(朱雀・南・鳥・夏)、白(白虎・西・虎・秋)を意味していると言われている。

～終盤に踊られる「四つの総」の踊り～

このバレエには男の闘いという1つのテーマがある訳だが、それを此処では武器を持つ闘いとは違う、心の闘いを表現をしたいと考えた。音楽的には、4人にそれぞれ特徴的なフレーズを作り、赤×黒、白×青、全色、と言う様に、フレーズをパズルの様に組み合わせながら進行する。その間に男性同士の踊りも入り、曲調は高まって行くが、この曲は7分以上かかるものでダンサーにとっても相当負担のかかるものだ。それだけに見応えもあり、終盤、バロルの宮殿の場で踊られるので、是非楽しんでご覧下さい。

見所3

女神ダーナの聖なる泉

泉の水は神話の中では、飲み水としてだけでなく、病や怪我を治す力があるとされている。が、実はルークとバロルの闘いでは泉は登場しておらず、この点はあくまでも私の創作だ。では何故泉の水を取り上げたか？だが、特に宗教的な意味合いがある訳ではない。村人達が大切に守る森の奥深くに眠る青い泉、そこに棲むダーナ、という発想はむしろ私自身の子供心、その原風景にあると思う。私の故郷は昔から海運が盛んで川辺に水神社が建ち、そのお祭りをいつも楽しみにしていた。又、当時レニングラードバレエと呼ばれたバレエ団が数年に一度、静岡市にやって来て、そこで観た「白鳥の湖」も衝撃的なものだった。まだ今のロシアがソ連と言われた時代、舞台の青白さは透明感と冷感があり、何かゾクゾクした感覚を今でも覚えている。そんなブルーの色や水の感覚が泉につながったのかもしれない。人にはそれぞれ故郷の山、川、森など、自分の心の拠り所となる風景があると思う。そこの小さな祭りを通じて人々が繋がったり、祈る事で遠く祖先を想ったり・・・そこをこの物語の原点としたいと思った。

岡本由利子